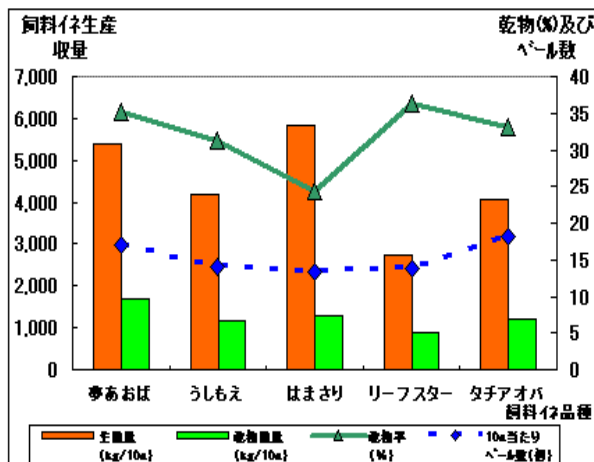


# 複数品種による飼料イネの 適期収穫モデルの策定

飼料イネの品種を組み合わせ、適期収穫と収穫期拡大のための機械化作業体系モデルを策定しました。

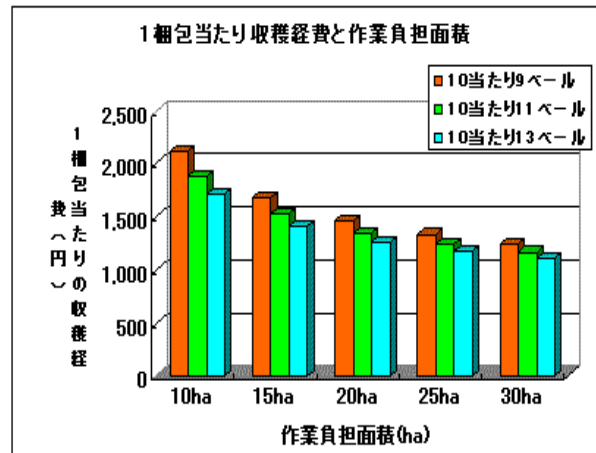
「夢あおば」や「うしもえ」などの中晩生品種、「はまさりや」や「たちあおば」の晩生品種、晩晩生品種を組み合わせ、9月下旬から約1か月間の適期収穫・調製作業が可能となりました。11月5日の麦は種前までに、地域内の飼料イネ収穫・調製作業の負担面積は20ha以上の作業が可能です。



飼料イネの品種別生産量・梱包数

飼料イネの生産量（乾物収量）は、熟す時期が早い品種も、遅い品種も大きな差はありませんでした。

飼料イネを刈り取ったバールは、10a当たり12個から17個できました。



飼料イネの収穫経費と期間内に収穫できる面積

品種を組み合わせることにより、適期収穫作業の期間を約30日に拡大できました。期間内に20ha強の飼料イネ収穫調製作業が可能となり、1バール当たり1,800円の経費で作業できるようになりました。



飼料イネ専用収穫機の収穫とラッピング作業

写真前面の機械は、フレール型収穫機で、飼料イネを収穫・調製しているところです。

収穫機の後ろの機械は、丸めた飼料イネをポリエチレンフィルムで密封（漬物にして長期間の貯蔵）しながら畦畔まで搬送するところです。